

DX推進スキル標準（DSS-P）人材類型とHCD基礎検定出題領域の対応

DSS-P 人材類型	DSS-Pで求められる役割とスキル概要	関連するHCD基礎検定の領域と項目
デザイナー	ビジネスの視点、顧客・ユーザーの視点等を総合的にとらえ、製品・サービスの方針や開発のプロセスを策定し、それらに沿った製品・サービスのあり方のデザインを担う人材。UX/UIデザイナーやグラフィックデザイナーなどが含まれる。	<p>全領域に高い関連性がある。</p> <p>1-1 人間中心デザインの理念、 1-3 関連する考え方（人間中心AI、ダークパターン、CX、参加型デザインなど） 2-1 HCDの計画、2-2 ユーザーの特定、 2-3 プロセスの選定および最適化（テーラリング、アジャイル、リーンUX） 3. 要求定義の全項目（3-1～3-5） 4. 具現化の全項目（4-1～4-5） 5. 評価の全項目（5-1 専門家評価、5-2 利用者評価） 6-1 運用（実利用状況の把握） 7. 基本知識の全項目（7-1～7-5） 8-1 人間中心デザインの拡がり、8-2 HCD専門家との連携</p>
ビジネスアーキテクト	DXの取り組みをリードし、目的実現に向けたプロセスを一貫して推進する人材。新しい事業やビジネスモデルの設計、関係者との協働関係の構築をリードする役割。	<p>2. 計画（2-1 HCDの計画、2-2 ユーザーの特定、2-3 プロセスの選定および最適化） 3. 要求定義（3-1 利用状況の把握、3-3 潜在・本質的要件の把握、 3-4 提供価値・要求の定義、3-5 要求のモデル化、3-2 理想の利用状況の想定） 4. 具現化（4-1 アイデアの創造、4-2 アイデアの視覚化） 8. 背景（8-1 HCDの拡がり）</p>
ソフトウェアエンジニア	デジタル技術を活用した製品・サービスの設計・実装・運用を担う人材。UI/UXを考慮した実装や、利用者からのフィードバックに基づく改善が求められる。	<p>3. 要求定義（3-1 利用状況の把握—利用者のニーズ理解） 4. 具現化（4-2 アイデアの視覚化—プロトタイピング、 4-4 情報構造、4-5 インタラクションデザイン） 5. 評価（5-2 利用者による評価—ユーザビリティテスト等） 6. 運用（6-1 実利用状況の把握—アクセス解析、リリース後の改善）</p>
データサイエンティスト	DXの推進において、データを活用した業務変革や新規ビジネスの実現に向けて、データを収集・解析する仕組みの設計・実装・運用を担う人材。	<p>3. 要求定義（3-1 利用状況の把握—定性・定量調査、データ収集・分析） 4. 具現化（4-1 アイデアの創造—調査結果からのインサイトを踏まえたアイデア検討） 6. 運用（6-1 実利用状況の把握—アクセス解析など）</p>
サイバーセキュリティ	業務プロセスを支えるデジタル環境におけるサイバーセキュリティリスクの影響を抑制する対策を担う人材。	<p>1. 理念（1-1 HCD専門家の倫理、1-3 関連する考え方—ダークパターン） 7. 基本知識（7-2 人間の特性—認知心理学、人間工学の理解）</p>

DXリテラシー標準（DSS-L）とHCD基礎検定出題範囲の対応

大分類	中分類	小分類	HCD基礎検定の関連領域と項目	HCD基礎検定の主な対応キーワード/活動例
Why: DXの背景		社会の変化	8-1 人間中心デザインの拡がり	DX、Society 5.0、ソーシャルイノベーションなど社会・産業の変化に関するキーワード。行政/自治体等におけるHCD活用事例の紹介。
		顧客価値の変化	1-1 人間中心デザインの理念 1-2 関連する考え方	利用者視点、新しい価値といったHCDのコアコンセプト。顧客・ユーザーの行動変化。
		競争環境の変化	8-1 人間中心デザインの拡がり	デジタル技術の活用による競争環境の変化の具体的な事例。HCDの適用分野の拡がり（デザイン経営、DX）。
What: DXで活用されるデータ・技術	データ	社会におけるデータ	3-1 利用状況の把握 6-1 実利用状況の把握	ユーザー調査（定性・定量調査）やアクセス解析によるデータの収集。
		データを読む・説明する	3-1 利用状況の把握 4-4 情報構造 4-5 インタラクションデザイン	データ可視化の手法。情報アーキテクチャやワイヤーフレームによる情報構造のデザイン。
		データを扱う	3-1 利用状況の把握	ユーザー調査、定性・定量調査。
		データによって判断する	3-1 利用状況の把握 3-3 潜在・本質的要求の把握	KA法、上位下位関係分析といった分析手法。データに基づく判断。
	デジタル技術	AI	1-3 関連する考え方 8-1 人間中心デザインの拡がり	人間中心AI。DX、Society 5.0などデジタル技術の発展に関連する社会背景。
		クラウド	—	—
		ハードウェア・ソフトウェア	7-2 人間の特性	人間工学、認知心理学に基づく人間の特性（身体的/認知的）の理解。
		ネットワーク	—	—
How: データ・技術の利活用	活用事例・利用方法	データ・デジタル技術の活用事例	8-1 人間中心デザインの拡がり	行政/自治体等における人間中心デザインの活用事例の紹介。
		ツール利用	—	—
	留意点	セキュリティ	7-2 人間の特性	人間の特性（認知、ヒューマンエラーなど）の理解に基づき、セキュリティ対策に伴うユーザーの負担感を低減させるUIを検討すること。
		モラル	1-1 人間中心デザインの理念 7-5 テクニカルライティング/UXライティング	HCD専門家の倫理（倫理規範）、ダークパターン。著作権の基礎知識。
		コンプライアンス	1-1 人間中心デザインの理念 7-5 テクニカルライティング/UXライティング	HCD専門家の倫理（倫理規範）、ダークパターン。著作権の基礎知識。
マインド・スタンス	デザイン思考／アジャイルな働き方	顧客・ユーザーへの共感	1-1 人間中心デザインの理念 2-2 ユーザーの特定	利用者視点、共創、マインドセット（相手の立場に立って考えられること、人を思いやること）。1次/2次ユーザー、ステークホルダーの特定。
		常識にとらわれない発想	4-1 アイデアの創造	フレインストーミング、KJ法、意味のイノベーションといった発想法。
		反復的なアプローチ	1-1 人間中心デザインの理念 2-3 プロセスの選定および最適化	HCDの基本プロセスである「繰り返すこと」。プロセスのテーラリング、アジャイル開発、リーンUX。
		変化への適応	8-1 人間中心デザインの拡がり	DX、Society 5.0、ソーシャルイノベーションなどの社会や産業の変化。HCDの理念である「繰り返すこと」（反復的なアプローチ）。
	新たな価値を生み出す基礎としてのマインド・スタンス	コラボレーション	1-2 関連する考え方との共通性 8-2 HCD専門家との連携	共創、参加型デザイン、コ・デザイン。HCD専門家との連携。
		柔軟な意思決定	2-3 プロセスの選定および最適化	失敗を許容できるレベルの小さいサイクルで反復的に取り組み、臨機応変に意思決定をする姿勢。プロセス選定・最適化（テーラリング）。
		事実に基づく判断	3-1 利用状況の把握 6-1 実利用状況の把握	ユーザー調査（定性・定量調査）、アクセス解析や実利用状況の把握。
		生成AI利用	1-3 関連する考え方	生成AIを適切に利用し、ビジネス変革に利用する姿勢。人間中心AI（HCAI）。